

第36回がん検診のあり方に関する検討会	資料3
令和4年7月15日（金）	

協会けんぽ・健康保険組合における被保険者のがん検診について

厚生労働省保険局保険課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

医療保険制度の体系

日本の医療保険制度において、協会けんぽ・健康保険組合の加入者数は、65歳までの医療保険加入者数の**約65%**を占め、被用者保険の大半を占めている。

後期高齢者医療制度

約17兆円

- ・ 75歳以上
- ・ 約1,890万人
- ・ 保険者数：47（広域連合）

前期高齢者財政調整制度（約1,590万人） 約7兆円

国民健康保険

（都道府県・市町村国保+国保組合）

- ・ 自営業者、年金生活者、非正規雇用者等
- ・ 加入者数：約2,850万人
- ・ 保険者数：約1,900

約9兆円

協会けんぽ

- ・ 中小企業のサラリーマン
- ・ **加入者数：約3,930万人**
- ・ 保険者数：1

※参考
・ 被保険者数：2,507万人
・ 被扶養者数：1,519万人
（協会けんぽ月報より引用）

約6兆円

健康保険組合

- ・ 大企業のサラリーマン
- ・ **加入者数：約2,830万人**
- ・ 保険者数：約1,400

※参考
・ 被保険者数：1,659万人
・ 被扶養者数：1,206万人
（令和4年度予算早期集計より引用）

健保組合・共済等 約5兆円

共済組合

- ・ 公務員
- ・ 加入者数：約910万人
- ・ 保険者数：85

※1 加入者数・保険者数・金額は、令和4年度予算ベースの数値。

※2 上記のほか、法第3条第2項被保険者（対象者約2万人）、船員保険（対象者約10万人）、経過措置として退職者医療がある。

※3 協会けんぽ・健康保険組合の被保険者・被扶養者数は、令和4年3月時点の集計結果であり、その合計は上段記載の加入者数とは時点相違につき一致しない。

- **協会けんぽ関連**



協会けんぽの加入者が受診する健診

■被保険者の健診

○協会けんぽが実施している健診

生活習慣病予防健診

- 根拠法は、健康保険法第150条
- 全国健康保険協会が被保険者を対象に実施する健診
- がん検診項目は以下のとおり

**便潜血反応検査、胸部レントゲン検査、
胃部レントゲン検査※1、子宮頸がん検診※2、
乳がん検診※3、腹部超音波検査（付加健診）**

- ※1 本人の希望により胃部レントゲン検査に代えて胃内視鏡検査の実施が可能な場合がある
- ※2 問診、細胞診（スメア方式（自己採取不可））
- ※3 問診、視診・触診（医師の判断により実施）、乳房エックス線検査（内外斜位方向撮影、40歳以上50歳未満の対象者については、頭尾側方向撮影も併せて行う。）

事業者健診から生活習慣病予防健診への
切替を促し、がん検診の受診を促進

○協会けんぽ提供以外の健診

労働安全衛生法に基づく定期健康診断（事業者健診）

- 根拠法は、労働安全衛生法第66条
- 労働安全衛生規則第44条に規定されたがん検診項目は以下のとおり
胸部エックス線検査及び喀痰検査

■被扶養者の健診

○協会けんぽが実施している健診

特定健康診査

- 根拠法は高齢者の医療の確保に関する法律第20条
- **がん検診項目はない**

特定健康診査と市区町村のがん検診
との同時受診を促進

○協会けんぽ提供以外の健診

市区町村において実施されるがん検診

- 根拠法は健康増進法第19条の2
- 各自治体において実施されているがん検診
- **基本的ながん検診は以下のとおり**
**胃がん検診、肺がん検診、大腸がん検診、
子宮がん検診、乳がん検診**

協会けんぽの生活習慣病予防健診（被保険者）

■ 一般健診

※赤字はがん検診項目

健診項目	受診対象者
○診察等 ○身体計測 ○血圧測定 ○尿検査 ○血液検査 ○心電図検査 ○便潜血反応検査 ○胸部レントゲン検査 ○胃部レントゲン検査※1	• 35歳～74歳の方

※1：本人の希望により胃部レントゲン検査に代えて胃内視鏡検査の実施が可能な場合がある

■ 付加健診

健診項目	受診対象者
○尿沈渣顕微鏡検査 ○血液学的検査（血小板数、末梢血液像） ○生化学的検査（総蛋白、アルブミン、総ビリルビン、アミラーゼ、LDH） ○眼底検査 ○肺機能検査 ○腹部超音波検査	• 一般健診を受診する40歳・50歳の方

■ その他の健診

健診項目	受診対象者
○乳がん検診（問診、視診・触診※2、乳房エックス線検査※3）	• 一般健診を受診する40歳～74歳の偶数年齢の女性
○子宮頸がん検診（問診、細胞診（スメア方式）※4）	• 一般健診を受診する36歳～74歳の偶数年齢の女性 • 20歳～38歳の偶数年齢の女性は単独受診可能
○肝炎ウイルス検査（HCV抗体検査、HBs抗原検査）	• 一般健診受診者（過去にC型肝炎ウイルス検査を受けたことがない方）

※2：医師の判断により実施

※3：内外斜位方向撮影。40歳以上50歳未満の対象者については、頭尾側方向撮影も併せて行う。

※4：自己採取不可

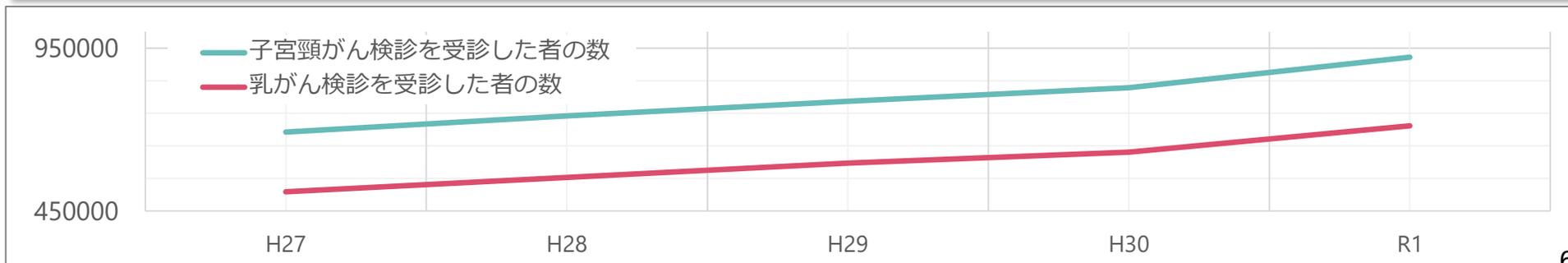
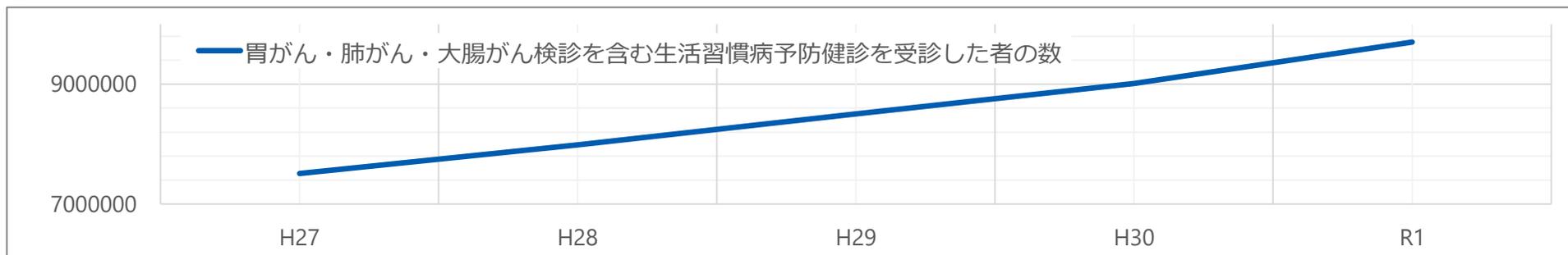
協会けんぽにおける被保険者のがん検診の受診者数の推移

	H27	H28	H29	H30	R1
胃がん・肺がん・大腸がん検診を含む生活習慣病予防健診を受診した者の数※1	7,512,562	7,988,935	8,503,787	9,012,001	9,700,335
(参考) 35歳～74歳の被保険者数	15,756,937	16,520,763	17,217,935	17,760,980	18,599,628
(参考) 上記に占める受診者数の割合	47.7%	48.4%	49.4%	50.7%	52.2%
子宮頸がん検診を受診した者の数	692,227	741,654	787,081	828,083	921,789
(参考) 20歳～74歳の偶数年齢の女性の被保険者数の推計※3	4,142,788	4,293,970	4,504,038	4,657,886	5,013,529
(参考) 上記に占める受診者数の割合	16.7%	17.3%	17.5%	17.8%	18.4%
乳がん検診を受診した者の数	509,416	553,353	596,948	631,030	711,514
(参考) 40歳～74歳の偶数年齢の女性の被保険者数の推計※2	2,397,555	2,527,598	2,706,883	2,836,364	3,073,225
(参考) 上記に占める受診者数の割合	21.2%	21.9%	22.1%	22.2%	23.2%

※1：生活習慣病予防健診に当該がん検診が基本項目として設定されているため、同健診の受診者数としているが、実際は、当日キャンセル等があり、必ずしも同健診とがん検診の受診者数は一致しない
 (H22～H26の平均では、胃がんが8割程度、肺がんがほぼ10割、大腸がんが9割程度の方が受診)

※2：統計上、5歳刻みの数しかデータがないため、40～74歳の女性の被保険者の合計の1/2を対象者数としている

※3：統計上、5歳刻みの数しかデータがないため、20～74歳の女性の被保険者の合計の1/2を対象者数としている



- **健康保険組合関連**



令和元年度 健康保険組合事業状況調査について

■ 調査方法

令和2年11月～令和2年12月にかけて、健康保険組合に調査票への記載を依頼

■ 調査対象年度

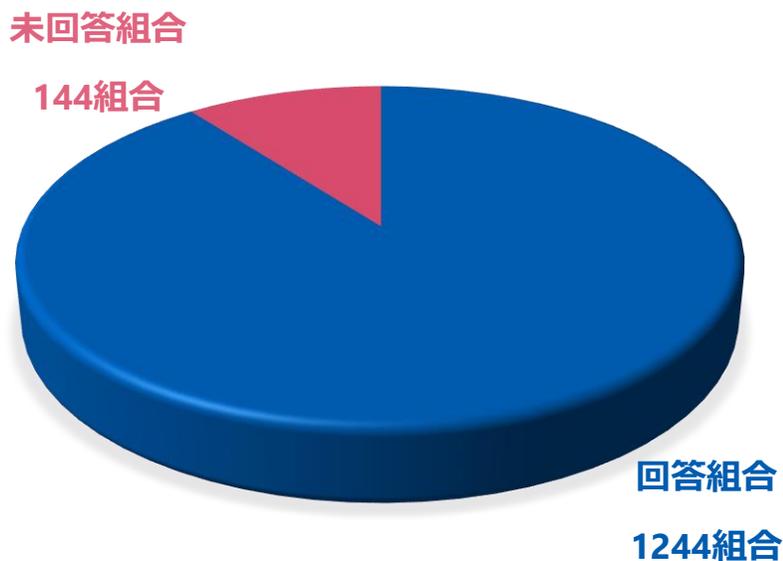
令和元年度

■ 調査目的・内容

健康保険組合の運営指標の参考として頂くことを目的として、健康保険組合の事業状況等に関する情報を調査している（調査項目にがん検診に関する項目も含まれている）

■ 回答組合数

1,244組合（全1,378組合中）

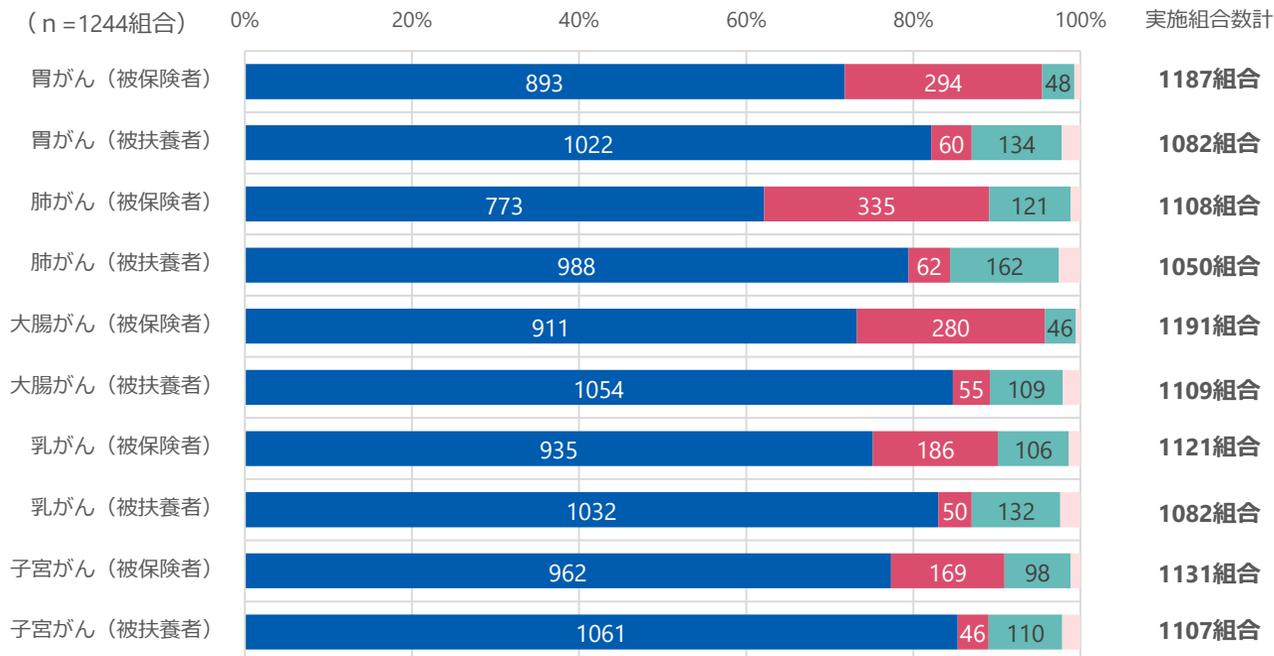


健康保険組合事業状況調査におけるがん検診の調査内容について

■ 実施状況

がん検診について、「がん検診の種類」ごとの「被保険者」及び「被扶養者」別の実施状況について

- ※ 一般健康診査などの各種健診等の中で検査している内容が、下記表に記載している検査内容について検診を行っている場合は「実施」を選択。
- ※ 「事業主と共同で実施」とは、事業主及び組合のそれぞれが費用負担している場合、または、事業主及び組合が一体となって計画から実施まで行っている場合をいう。



(グラフ数値は組合数)

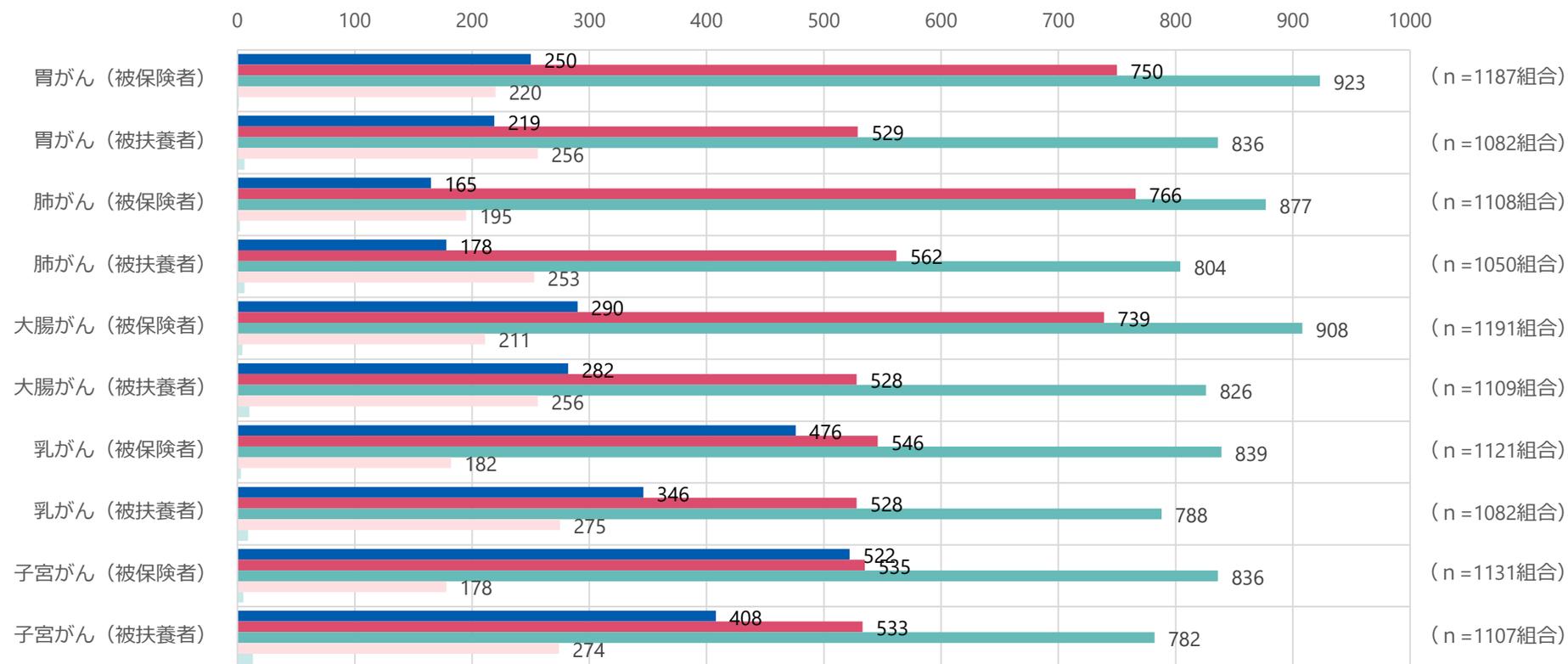
■ 実施 ■ 事業主と共同で実施 ■ 実施していない ■ 未記載

がん検診の種類	検査内容
胃がん	胃透視（バリウム）検査（間接撮影）、胃透視（バリウム）検査（直接撮影）、内視鏡検査、ペプシノーゲン検査、腫瘍マーカー 等
肺がん	喀痰細胞診、胸部X線検査（間接撮影）、胸部X線検査（直接撮影）、ヘリカルCT検査、腫瘍マーカー 等
大腸がん	便潜血検査、注腸検査、大腸内視鏡検査、腫瘍マーカー 等
乳がん	視触診、マンモグラフィ検査、乳房超音波検査、腫瘍マーカー 等
子宮がん	頸部細胞診、体部細胞診、経膈超音波検査、腫瘍マーカー 等

健康保険組合事業状況調査におけるがん検診の調査内容について

■ 実施の方法

がん検診の種類毎の「一般健診（生活習慣病予防健診を含む）」、「人間ドック」の中で実施しているか、別に実施しているかについて（複数選択可）



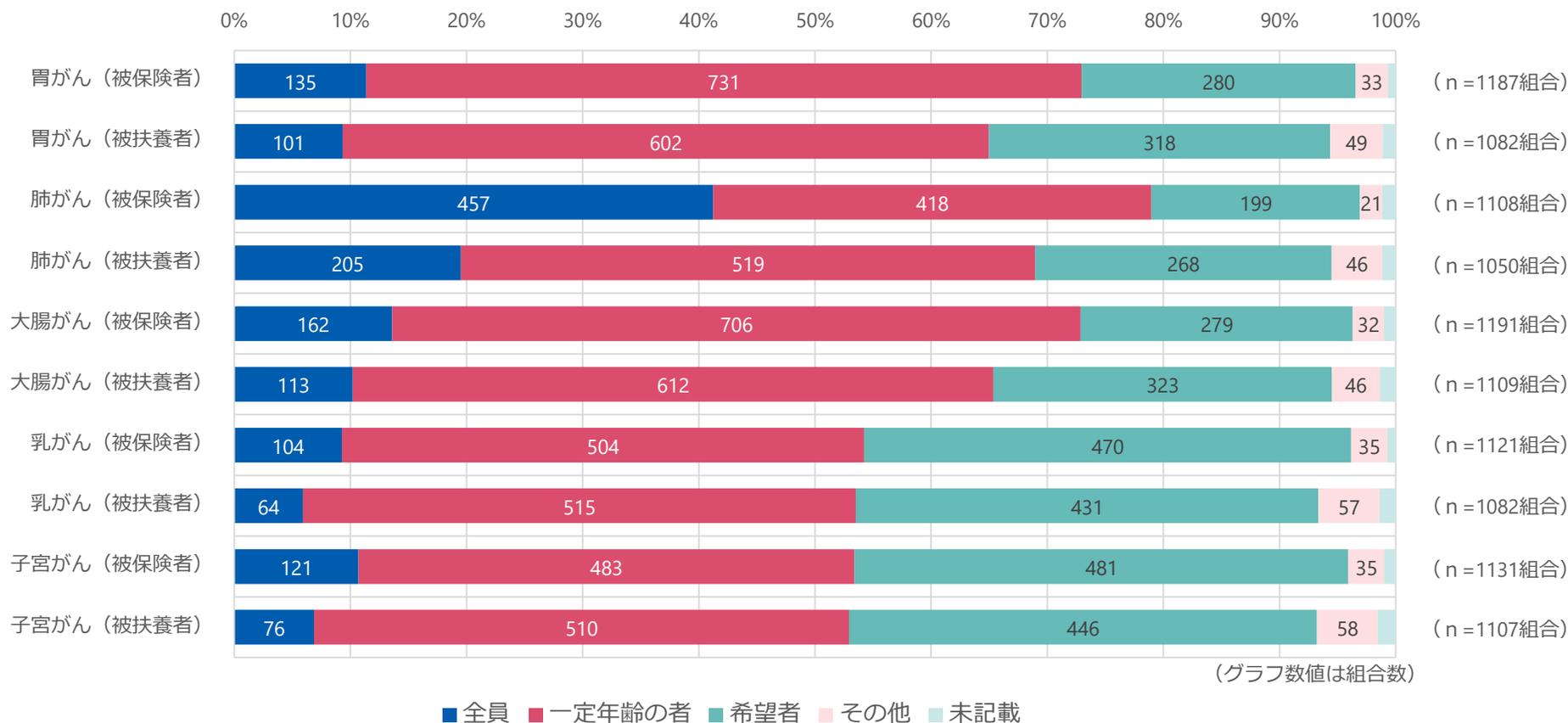
(グラフ数値は組合数)

- 別で実施している
- 人間ドックの中で実施している、又は併せて実施している
- 一般健診の中で実施している、又は併せて実施している
- 特定健康診査と併せて実施している
- 未記載

健康保険組合事業状況調査におけるがん検診の調査内容について

■ 受診対象者の範囲

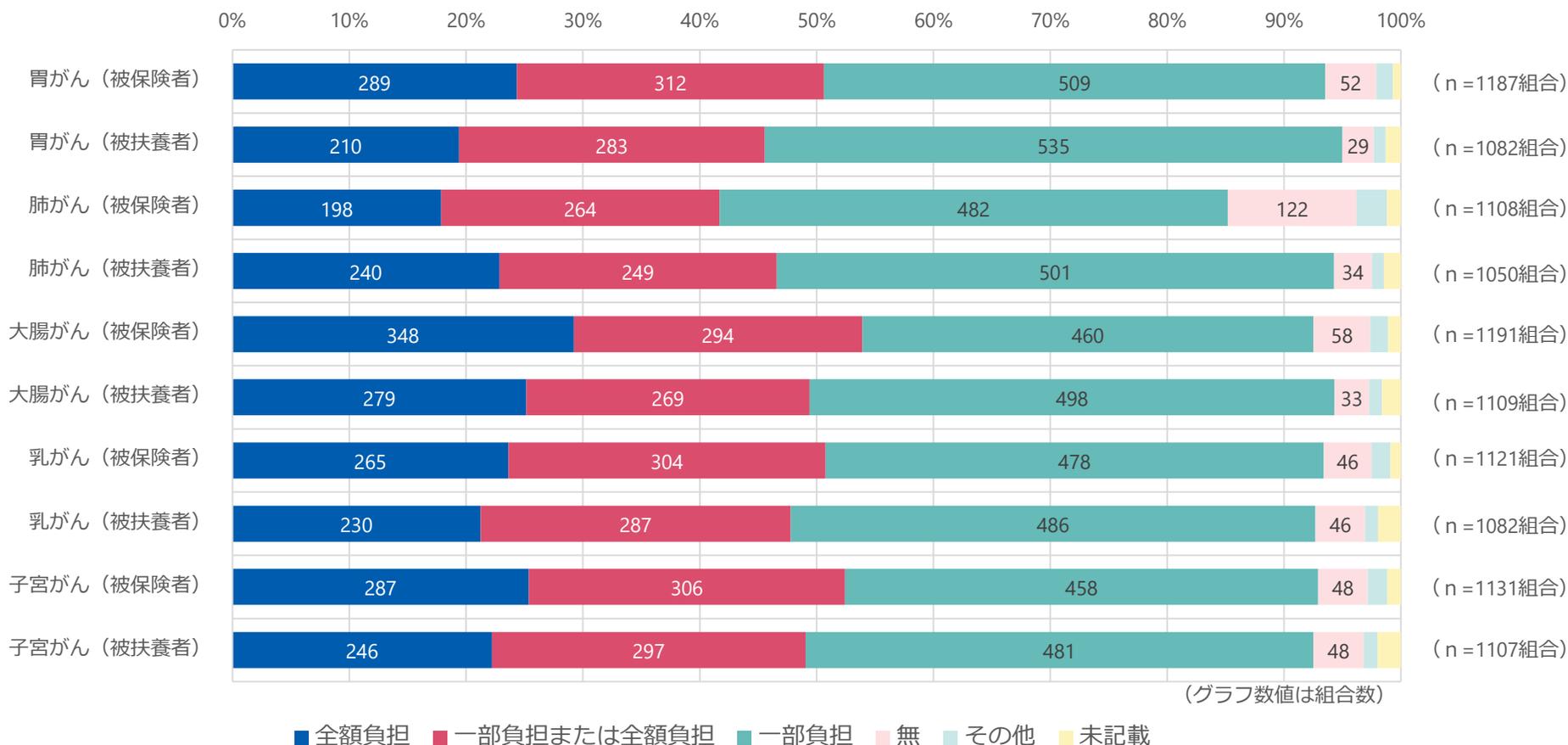
がん検診の種類ごとの、受診の対象者について



健康保険組合事業状況調査におけるがん検診の調査内容について

■ 保険者の負担の有無

がん検診の種類ごとの、受診者の健診等にかかる費用の保険者の負担の有無について



健康保険組合における被保険者のがん検診の受診者数の推移

注：回答した組合ごとの「がん検診の対象者基準」はいずれも不明かつ相違しており、前提を揃えた実施率の算出は不可能なため、受診者数を経年で列記している。

	H27	H28	H29	H30	R1
胃がん	2,910,061	2,976,980	3,143,717	3,142,667	3,012,405
肺がん	4,272,946	4,282,347	4,483,452	4,578,352	4,679,422
大腸がん	3,166,104	3,254,132	3,526,615	3,651,016	3,653,711
乳がん	679,300	799,259	893,606	829,543	875,344
子宮がん	603,467	723,114	806,289	743,781	780,015
(参考) 回答組合数平均/当該時点総組合数	詳細不明/1,394	479/1388	496/1384	490/1380	500/1378

※厚生労働省保険局保険課が行う事業状況調査より得られた数値

※平成27年度～令和元年度におけるがん検診の受診者数について、それぞれのがん検診を実施している組合が任意で回答したもの

